

## 第6次「エネルギー基本計画」

政府が22日と閣議決定した「第6次エネルギー

基本計画」の問題点について、大島堅一・龍谷大学教授（環境経済学）に聞きました。（松沼謙）

龍谷大学教授（環境経済学）

大島 堅一さん

今回の基本計画は、実なるからです。

原子力あります

質的に2030年を目標にした気候危機に対応する最後のエネルギー基本計画です。30年までは既に10年を切っており、次の計画は3、4年先なので長期的対策は入らなく

くなっています。

原子力の電源に占める割合は、昨年でも4%台にとどまっています。30年には運転40年で廃炉する原発も田へぐれでじょ

うから20~22%は達成で

かない目標です。もちろん、事故の危険性や放射性廃棄物の出しを抑えればゼロにして当然だと私は考えていました。

確実な二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の削減のために、原子力というあ

てこならない電源を入れないで計画を立てること

が必要です。実現しないものを見てにして議論す

る余裕はありません。原

発を入れなければ、かわ

りに再生可能エネルギーの割合をその分増やすと

か、省エネルギーで埋め

合わせるなどさまざま

な対策が必要になります。

画を立ててるので、本

当に必要な対策が見えな

くなっています。

その他の火力の扱いも

問題があります。水素や



大島堅一さん

## 気候危機対応できず

アヘモニアの利用やCO<sub>2</sub>S(CO<sub>2</sub>)を回収し地下に貯留する技術)は、商業技術としては実現していません。それを利用可能なように見せていま

す。

基本計画は統一性がありません。あらゆる産業界の意見を聞いて、現実と違つても利害関係者が納得するものを集合させたにすぎないので、矛盾がいっぱい入っています。要は、この基本計画では気候危機に対応できません。

しかし、これを一度出せば、市場や経済、社会に対するこれまでの行動がこんなものに将来をかけるのは全く無駄で

ます。

基本計画の決定プロセスに国際の闘争がほとんどなく、石炭火力を使

します。『変わらないでいい』とか、『原子力がうまくいく』と経済界が受け取るでしょう。

基本計画の決定プロセスに国際の闘争がほとんどなく、石炭火力を使

います。『変わらないでいい』とか、『原子力がうまくいく』と経済界が受け取るでしょう。

基本計画の決定プロセスに国際の闘争がほとんどなく、石炭火力を使

います。『変わらないでいい』とか、『原子力がうまくいく』と経済界が受け取るでしょう。

基本計画の決定プロセスに国際の闘争がほとんどなく、石炭火力を使

います。『変わらないでいい』とか、『原子力がうまくいく』と経済界が受け取るでしょう。

### 経済的な弊害

経済政策としても弊害

が大きい。国の予算やさ

まどんな政策が、将来性のない間違った方向で進められていくわけですか

ら、多くの無駄が生じます。